

科目名	GCB I									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		前園 勝稔、北島 仁宇、毛利 俊司 小淵 洋子、染矢 裕美子、村上 香代、川野 啓祐	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年									
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを説明できる				
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを説明できる				
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性を説明できる				
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)									
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう								
	2	「協働」の態度を持った学生生活								
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～							グループワークのテーマについて自分の考えをまとめてくること(30分)	
	4	マナーの本質 I								
	5	マナーの本質 II								
	6	グローバルシティズンとしての日常								
	7	グローバルシティズンとしての目標							自分の目標をまとめてくること(30分)	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)課題・レポートを数回実施する (2)受講状況を評価する 以下を上記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題・レポート		○	○		◎		80%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない。									

科目名	システム設計						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	姫野 マリ・江利 かおり・高橋 政博	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	テキストとオリジナル教材で講義と演習を行い、システム開発における設計過程の内容の理解と実践による基礎修得を目指す。						
	iCDタスクコード		DV05.5.1, DV05.6.1, DV05.6.2, DV05.7.1, DV05.7.2				
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				開発に必要な主な設計書の種類を把握し説明することができる	
	○	◎				設計書から設計意図を理解することができる	
	○	◎				設計意図を設計書へ具現化することができる	
テキスト・教材 参考図書	はじめよう！ システム設計(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～2	システムとはなにか、システムの設計とはなにか					
	3～4	システムを設計する前段階(要件定義)					
	5～6	フロントエンド(ユーザーインターフェースの設計)				googleアカウント作成(Figmaに使う)	
	7～8	フロントエンド(ユーザーインターフェースの設計)					
	9～10	作成物を共有サービスに保存する				Githubアカウント作成	
	11～12	フロントエンド(フロント機能の設計・モジュール化)					
	13～14	フロントエンド(フロント機能の設計・モジュールの出入力)					
	15～16	フロントエンド(フロント機能の設計・モジュールのロジック)					
	17～18	バックエンド(バックエンド機能の設計・モジュール化)					
	19～20	バックエンド(バックエンド機能の設計・モジュールの出入力)					
	21～22	バックエンド(バックエンド機能の設計・モジュールのロジック化)					
	23～24	データベース(管理するデータの整理、入出力)					
	25～26	データベース(管理するデータの整理、テーブル化)					
	27～28	データベース(管理するデータの整理、正規化)					
	29～30	まとめ					
評価方法	(1)確認テスト・小テストを数回実施する(2)課題・レポートを数回実施する(3)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト・小テスト	○	◎		○		25%
	課題・レポート	○	◎		○		60%
	受講状況				◎		15%
履修上の注意	PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	データベース演習							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	姫野マリ・江利かおり・高橋政博		
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	表検索、表結合、表作成などの基本的なSQL操作をステップアップ形式で学習する。実行環境を作成し、毎回、SQL操作結果を確認しながら、目的に応じた表操作ができることを目指す。 更にデータベース設計の知識やプログラミングとの関連性も学びながら、後期の企業連携授業へと繋げる。 iCDタスクコード DV05.2.3, DV05.2.4, DV08.2.2, DV08.2.3							
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				記述されたSQL文を理解できる		
	○	◎				要求されるデータ操作や表定義のSQL文を記述できる		
	○	◎				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる		
テキスト・教材 参考図書	SQL ゼロからはじめるデータベース操作(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1 2	データベースの構成と特徴、実行環境の作成						
	3 4	テーブル作成 基本						
	5 6	テーブル作成 応用(参照制約、インデックス)						
	7 8	確認テスト、SELECT文_検索の基本					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	9 10	SELECT文_検索の基本						
	11 12	SELECT文_集約と並べ替え						
	13 14	SELECT文_サブクエリ						
	15 16	SELECT文_結合1						
	17 18	SELECT文_結合2						
	19 20	確認テスト、データベース設計(正規化)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	21 22	データベース設計(フィールド、制約)						
	23 24	データベース設計(E-R図)						
	25 26	データベース設計(テーブル定義書)						
	27 28	確認テスト、総合演習 SQL					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	29 30	総合演習 設計、総復習						
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト3回実施する。 (3)授業内に課題演習を指示し、課題の完成度や提出状況を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	○	◎				30%
		確認テスト	○	◎				20%
課題演習				◎	◎		40%	
受講状況					◎		10%	
履修上の注意								

科目名	プログラミング演習ⅡA										
科目名(英)											
単位数	6単位		時間数		90時間		担当者		久家政人・正路文徳・香川文紀		
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		IT企業のエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年										
授業概要	Javaの基礎構造(型・クラス・メソッド)を振り返ったうえで、アルゴリズムを自分で考え、中程度のJavaプログラムを独力で作成できる力を身につける。また、プログラムを読む力を育てプログラミング力の総合力の底上げを行う。										
	iCDタスクコード		DV05.7.1, DV05.7.2, DV05.7.3, DV05.7.4								
授業形式	講義:△		演習:○		実習:		実技:		※主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	◎				vs codeを使用してプログラムを作成することができる					
	○	◎				簡単なエラーであれば独力で解決することができる					
	○	◎				中程度のプログラムを自分でアルゴリズムを考え作成することができる					
	○	◎				ソースコードを見て何をしているかを理解することができる					
テキスト・教材 参考図書	テキストなし、スライド資料のほか、必要に応じ、1年次の教科書を参照										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1-3	開発環境構築/java基礎									
	4-6	プログラムの構造(データ型とスタック・ヒープメモリ)									
	7-9	ループ基礎(for while dowhile)									
	10-12	配列基礎									
	13-15	総合演習1(文章問題・アルゴリズム)									
	16-18	メソッド基礎1・呼び出しのパターン									
	19-21	メソッド基礎2・戻り値の利用									
	22-24	総合演習2(アルゴリズム)									
	25-27	クラス基礎1(インスタンスとインスタンスメソッド)									
	28-30	クラス基礎2(メソッドのインスタンス利用)									
	31-33	総合演習3(アルゴリズム)									
	34-36	コンストラクタ基礎・カプセル化									
	37-39	総合演習4(プログラム自作)									
	40-42	最終課題1									
	43-45	最終課題2									
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)確認テスト・小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	◎		◎				○			50%
	課題・レポート	◎		◎				○			25%
	確認テスト・小テスト							◎			25%
履修上の注意	PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。										

科目名	Webプログラミング演習ⅡA											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		香川文紀・藤澤昌聡			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		IT企業のエンジニアとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年											
授業概要	テキストとオリジナル教材で講義と演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎修得を目指す。達成スキル表を提示し、技術習得の見える化を行っていく。外部Webサーバで動作確認を行いながらWebアプリケーションの理解を深める。また、演習問題を実施して、知識の定着を図る。											
	iCDタスクコード		DV08.2.1, DV08.5.1, DV08.5.2, DV08.5.3, DV08.5.4									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	◎	○				Webアプリケーションの仕組みを説明することができる						
	○	◎				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる						
		◎				PHPフォームを利用した入出力操作のプログラムを作成できる						
		◎				外部Webサーバ上のデータベースを操作することができる						
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-2	外部サーバのアカウント作成、Webサーバの仕組みについて										
	3-4	リクエスト・レスポンス、HTMLの復習										
	5-6	PHPフォーム作成、文字コード										
	7-8	乱数、基本ステートメント										
	9-10	フォーム操作1										
	11-12	フォーム操作2										
	13-14	フォーム操作3										
	15-16	フォーム操作4、課題作成					演習課題を提出すること					
	17-18	日付処理、正規表現										
	19-20	課題作成					演習課題を提出すること					
	21-22	効率的なプログラミング										
	23-24	外部データベースの操作1										
	25-26	外部データベースの操作2										
	27-28	外部データベースとの連携1										
	29-30	外部データベースとの連携2										
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラミング課題を数回実施する。(3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
定期試験		○		◎								30%
課題演習		○		◎				◎				60%
受講状況								◎				10%
履修上の注意												

科目名	Webフロントエンド演習A											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		藤澤 昌聡・久家 政人・正路 文徳・柴内 加代			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験		IT企業のエンジニアとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年											
授業概要	Web開発で必要となるHTML・CSSの基礎を習得する。基本的なページを作成するためのタグ、Web開発で重要なフォーム系のタグ、マルチデバイスを考慮したレイアウト、ライブラリを使用し効率的なWebページの作成を行う。											
	iCDタスクコード		PL03.3.1, PL03.3.2									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
		○				HTMLで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。						
		○				スタイルシートで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。						
		○				基本的なWebページを作成することができる。						
		○				ライブラリを利用したWebページを作成することができる。						
テキスト・教材 参考図書	これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS&Webデザイン1冊目の本[電子書籍] 翔泳社											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	開発環境準備										
	2	HTML,CSS										
	3	JavaScript1										
	4	JavaScript2										
	5	基礎演習							課題の作成、復習を行うこと			
	6	イベントドリブン1										
	7	イベントドリブン2										
	8	イベントドリブン3										
	9	イベントドリブン演習							課題の作成、復習を行うこと			
	10	JSON										
	11	Ajax										
	12	jQuery										
	13	Vue.jsの基本										
	14	応用演習1							課題の作成、復習を行うこと			
	15	応用演習2							課題の作成、復習を行うこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する(2)プログラミング課題を数回実施する(3)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								30%
	課題演習	○		◎				◎				60%
	受講状況							◎				10%
履修上の注意												

科目名	GCB II									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		姫野 マリ・久家 政人・香川 文紀・正路 文徳・ 高橋 政博・藤澤 昌聡・江利 かおり	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・広い視野・知識と深い洞察力 ・自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				考えることの大切さを理解することができる。				
		○				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。				
		○				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。				
		○				行動する大切さを理解することができる。				
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックⅡ(麻生塾)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	グローバルシティズンと志					振り返りレポート			
	2	なぜ志を立てることが大切なのか					振り返りレポート			
	3	自己を知る					振り返りレポート			
	4	伝える力を学ぶ(1)					振り返りレポート			
	5	伝える力を学ぶ(2)					振り返りレポート			
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる					振り返りレポート			
	7	自己の大切さと責任を自覚する					振り返りレポート			
	8	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと					振り返りレポート			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)毎回の授業でレポートを指示する。 (2)授業で取り組むグループワークや発表内容、受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題・レポート			◎		○		80%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない。レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点・補習・追加課題を行う場合がある。									

科目名	ゼミナールⅡA									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		姫野 マリ・久家 政人・香川 文紀・正路 文徳・ 高橋 政博・藤澤 昌聡・江利 かおり	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科高度ITシステム専攻2年 情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年 情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年 情報システム科プログラミング専攻アドバンス1年 情報システム科プログラミング専攻2年									
授業概要	IT業界の構造や動向、課題について知識を深め、キャリアプランを含めた将来の目標を設定する。 目標設定-計画立案-実行-振り返り のサイクルを様々な活動のベースとして利用する。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		◎		○		自分が目指すソフトウェアエンジニア像を具体的に説明できる				
		◎		○		継続的な改善のための手順 PDCA を使った取り組みができる				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	前期キックオフイベント 目標設定					授業後に年間の目標を設定し、文書化する。時間内に作成できない場合は課題とする			
	2	PDCAクラスワーク1								
	3	業界研究 講義								
	4	業界研究 調査								
	5	業界研究 発表準備					時間内に作成できない場合は課題とする			
	6	業界研究 発表								
	7	PDCAクラスワーク2								
	8	企業研究 講義								
	9	企業研究 調査								
	10	企業研究 レポート作成					時間内に作成できない場合は課題とする			
	11	PDCAクラスワーク3								
	12	PDCAクラスワーク4								
	13	PDCAクラスワーク5								
	14	PDCAクラスワーク6								
	15	前期振り返りと後期授業についてのガイダンス					振り返りのレポートを作成する			
評価方法	(1)授業の中で課題レポートを数回実施する。(2)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題・レポート			◎		○		80%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない									

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		川原 ユウジ・徳島 欽子・逢坂美千代			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年											
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
				○		きちんと声を出して挨拶ができる						
	○			○		効果的な自己PRができる						
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる						
テキスト・教材 参考図書	ウイネット『コミュニケーション技法』ウイネット、2009											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】					コミュニケーションについて、自分なりインターネットや本で調べる					
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】										
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】										
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】										
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】					コミュニケーションの基本について復習を行なう					
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】										
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】										
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】										
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】					プレゼンテーション内容を事前に考える					
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】										
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】										
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】										
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】										
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】										
	15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】										
評価方法	(1)課題・レポートを実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	課題・レポート		○						○		55%	
	小テスト		○								25%	
	受講状況								○		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。											

科目名	プログラミング基礎演習A											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		西野 直幸・正路 文徳・江利 かおり			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年											
授業概要	1年生で実施したプログラミング演習を振り返り、再度Javaプログラミングの基礎を学ぶ。 Java言語の基本文法を学び、基礎的なプログラムの作成できるようになることを目標とする。											
	iCDタスクコード		DV05.7.1, DV05.7.2, DV05.7.3, DV05.7.4									
授業形式	講義:		演習:		○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	◎				Javaの基本的な用語を説明することができる						
	○	◎				基本構文による処理を作成することができる						
テキスト・教材 参考図書	なし											
授業計画	回数	授業項目・内容								授業外学修指示		
	1 2	Java環境構築、用語および変数の復習										
	3 4	基本構文の復習(条件分岐)										
	5 6	基本構文の復習(ループ)										
	7 8	基本構文の復習(配列)										
	9 ～ 11	メソッド、オーバーロード、クラス、インスタンス										
	12 ～ 14	コンストラクタ、クラス変数、インスタンス変数、クラスメソッド										
	15	総合演習										
	評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)課題またはレポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
定期試験		○		◎								50%
課題・レポート		○		◎				○				30%
受講状況								◎				20%
履修上の注意	PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。											

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	畠添 正和	
実施年度	2022年度		実施時期	前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。 中間に授業内評価テスト(2回:各30分)及び期末試験を実施し、理解度を把握し、フォローアップする。						
	iCDタスクコード		該当なし(基礎知識全般)				
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(1:仕事算)					
	2	国語分野(1:二語の関係①)、数学分野(2:鶴亀算)・連立方程式の演習					
	3	国語分野(2:二語の関係②)、数学分野(3:損益算)					
	4	国語分野(3:文法)、数学分野(4:速さ・時間・距離)					授業内評価テストの範囲を復習しておくこと
	5	授業内評価テスト①(数学1~4) 社会:政治経済国語分野(4:語句の意味)、数学分野(5:場合の数)					
	6	国語分野(5:短文の穴埋め)、数学分野(6:確率)					授業内評価テストの範囲を復習しておくこと
	7	授業内評価テスト②(数学5~6)授業内評価テストテスト					
	8	授業内評価テストテスト①②見直し&フォローアップ 国語分野(6:文章整序)					
	9	国語分野(6:文章整序)、数学分野(7:精算と割引料金)					
	10	国語分野(7:空欄補充)、数学分野(8:分割払い)					
	11	国語分野(8:長文読解)、数学分野(19:参考問題1)					
	12	国語分野(9:参考問題)、数学分野(19:参考問題2)					
	13	数学分野(13:集合)					
	14	数学分野(15:ブラックボックス、17:物の流れと比率)					
	15	期末試験対策					
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で授業内評価テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	セキュリティ基礎											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		木村 浩昌			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年											
授業概要	情報セキュリティにおける各分野の基礎レベルの知識を習得する。セキュリティに関する問題点と対処方法を説明することができ、ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできるスキルを身に付ける。また、経済産業省主催 情報セキュリティマネジメント試験の合格を目指す。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。						
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。						
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 情報セキュリティマネジメント 教科書 令和4年度(インプレス)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	第1章 情報セキュリティの基礎知識(1)										
	2	第1章 情報セキュリティの基礎知識(2)										
	3	第2章 情報セキュリティ管理(1)										
	4	第2章 情報セキュリティ管理(2)										
	5	第3章 情報セキュリティ対策(1)										
	6	第3章 情報セキュリティ対策(2)					1から3章までの用語の意味を確認しておく					
	7	第4章 法務(1)										
	8	第4章 法務(2)					4章の用語の意味を確認しておく					
	9	第5章 マネジメント(1)										
	10	第5章 マネジメント(2)										
	11	第6章 テクノロジ(1)										
	12	第6章 テクノロジ(2)					5から6章までの用語の意味を確認しておく					
	13	第7章 ストラテジ(1)										
	14	第7章 ストラテジ(2)					7章の用語の意味を確認しておく					
	15	総復習										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○										50%
	課題・レポート	○		◎				○				30%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												

科目名	情報処理試験対策秋対策A									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		32時間		担当者		川野 啓祐・姫野 マリ	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年									
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義： △		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1～8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
	9～16	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	◎				60%			
	確認テスト	○	◎				20%			
	受講状況				◎		20%			
履修上の注意										